

[https://farid.ps/articles/banners\\_and\\_soils\\_drenched\\_in\\_blood/ja.html](https://farid.ps/articles/banners_and_soils_drenched_in_blood/ja.html)

# 旗と血に染まった土

バルザックは我々に言った：「すべての大きい富の背後には犯罪がある。」国家も例外ではない。彼らの旗は高く掲げられているが、その下には追放され、征服され、あるいは滅ぼされた者たちの血で土が染まっている。アメリカ合衆国は先住アメリカ人の集団墓地の上に築かれ、彼らの土地は盗まれ、民族は粉碎され、星条旗の下でその土は叫んでいる。イスラエルは1948年の「ナクバ」一大惨事一の上に築かれた。70万人以上のパレスチナ人が家から追い出され、村々は破壊され、彼らの土地は別の旗に奪われた。

これは偶然ではなかった。それは意図されたものだった。シオニストの準軍事組織であるイルグンとレビは、パレスチナ人とイギリス人双方に対してテロを繰り広げた。メナヘム・ベギン—後に首相となる—は当時、パレスチナで最も指名手配されたテロリストであり、MI5から1万ポンドの懸賞金がかけられていた。彼の指揮下で、イルグンは1946年のキング・デビッド・ホテル爆破事件を実行し、91人を殺害し、1948年のデイル・ヤシン虐殺に参加し、100人以上の民間人が虐殺された。シオニストの軍は戦争中に400以上のパレスチナの村を破壊した。これがイスラエルが根を下ろした土だった。

そして、その犯罪は建国で終わらなかった—それは政策として固まった。生き残ったパレスチナ人は軍政下に置かれた。亡命した者たちは決して帰還を許されなかった。ヨルダン川西岸は入植地と壁によって分断された。ガザは封鎖され、窒息させられ、その住民はただ存在するだけで罰せられた。人権団体—アムネスティ・インターナショナル、ヒューマン・ライツ・ウォッチ、ビツェレム—はみなこの体制を名付けた：アパルトヘイト。

今、ガザはイスラエルの道徳的偽善の墓場となった。2025年8月までに、ガザ保健省は**6万2千人以上の確認された死者**を記録し、彼らの遺体は回収され、身元が確認された。そのほぼ半数が子供である。しかし、これは大惨事の目に見える層にすぎない。何万人の人々が、平らにされた地区の瓦礫の下に埋もれたまま、名前も記録されていない。実際の死者数はほぼ確実に3倍から5倍高く、国際ジャーナリスト、国連の調査官、鑑識専門家がガザへの立ち入りを最終的に許可されたときにのみ、その現実が明らかになるだろう。イスラエルはナチスがかつてのようにその犯罪を隠している—しかし、歴史が示すように、残虐行為は永遠に隠すことはできない。ホロコーストの全貌が連合軍が強制収容所に入ったときに初めて明らかになったように、ガザの隠された墓もまた、いつかその犯罪の規模を証言するだろう。

## シンボルは残虐行為を生き延びることはできない

我々はこれを以前にも見た。卍はかつてインド、中国、そして古代世界全体で幸福と幸運のシンボルだった。それは何千年もの間、寺院や神聖な芸術を飾っていた。しかし、ナチスはそれを乗っ取り、死の収容所の上に掲げ、ジェノサイドに染めた。今日、西洋では卍を取り戻すことはできない。その本来の意味はアウシュビッツの灰の下に埋もれている。

イスラエルの旗は今、同じ運命に直面している。かつて迫害された民の避難所の旗として掲げられたそれは、虐殺、包囲、そしてアパルトヘイトの壁の上に運ばれてきた。世界にとって、それはもはや生存を表すものではなく一支配と死を表している。その縞模様は、かつてタリートを想起させるものだったが、今はガザの子供たちの血で汚れている。その星は、かつて信仰のシンボルだったが、抑圧の印として武器化された。

そして、卍と同じように、それは取り戻すことができない。南アフリカはアパルトヘイト時代の旗を放棄した。なぜなら、それが人種的専制と切り離せなかったからだ。アメリカの南軍旗は今、奴隸制度と平等への反逆のシンボルとして認識されている。歴史もまた、イスラエルの旗を同じように扱うだろう：希望のシンボルではなく、残虐行為が行われた旗として。

## 取り戻せない汚点

この汚点はイスラエルだけのものではない。それは人類の良心に属する。ガザが飢え、爆撃され、埋葬されることを許した世界は、この恥を背負うだろう。ナチスの犯罪があまりにも長く目を背けた世界に対する永遠の告発であるように、ガザは我々の集団的記憶を悩ませるだろう。

どんな旗も、国歌も、巧妙に作られた演説も、この血を洗い流すことはできない。歴史は覚えている。そして抵抗は権利であるだけでなく一ブレヒトが我々に教えたように一義務でもある。

聖書が警告するように：「お前は何をしたのか？お前の兄弟の血の声が地から我に叫んでいる。」土は覚えている。旗は覚えている。そして、精算の時が来る。

## 参考文献

- モリス、ベニー。パレスチナ難民問題の再考。ケンブリッジ大学出版、2004年。
- ハリディ、ワリド。残されたすべて：1948年にイスラエルによって占領され、住民を追われたパレスチナの村々。パレスチナ研究所、1992年。
- セゲブ、トム。1949年：最初のイスラエル人。フリープレス、1986年。
- MI5アーカイブ、英國国立公文書館：メナヘム・ベギンの懸賞金（1944–1945年）。
- パパ、イルアン。パレスチナの民族浄化。オンワールド出版、2006年。
- アムネスティ・インターナショナル。パレスチナ人に対するイスラエルのアパルトヘイト：支配と人道に対する犯罪の残酷なシステム。2022年。
- ヒューマン・ライツ・ウォッチ。越えた閾値：イスラエル当局とアパルトヘイトおよび迫害の犯罪。2021年。
- ビツエレム。ヨルダン川から地中海までのユダヤ至上主義の体制：これがアパルトヘイト。2021年。
- 国連OCHA（国連人道問題調整事務所）。ガザ危機報告書、2023–2025年の犠牲者データ。
- ヘラー、スティーヴン。卍：救済を超えたシンボル？オールワースプレス、2000年。